

間投詞的な用法をもつ形容詞 *chouette* について

人文学部教授 山 本 大 地

1. 導入

筆者はこれまで、形容詞と間投詞にまたがる語彙を中心に考察してきた。山本（2011）をはじめとするいくつかの論考で、*fichu*, *foutu*, *satané* の前置付加用法が統語的な修飾構造に反して、名詞の指示対象の性質を記述する働きをもたず、悪態語に近い働きを担っていることを論じた。近年では、Yamamoto（2020a）において *foutu* と *sale* の前置付加用法を比較し、いずれも通常の品質形容詞と異なる性質を有するが、より悪態語に近い *foutu* と品質形容詞的な性格を有する *sale* の意味的な差異を明らかにした。さらに、Yamamoto（2020b）では本来間投詞であるものが形容詞（または副詞）に接近する事例として *bof* を取り上げ、この間投詞が文の形容詞と副詞の環境に現れ、文を構成する一要素となり得ることを三つのコーパスを用いて示した。

このような立場から興味深い現象の一つとして、形容詞から間投詞への転用がある。以下は、*Trésor de la Langue française informatisé*（以下 TLFi）、*Grand Robert*、*Grand Larousse* といった主要な大辞典のすべてにおいて間投詞である、または間投詞的な用法をもつと認められている形容詞である。

- (1) *Chouette!*
- (2) *Chic!*
- (3) *Mince!*

間投詞には、*ah, oh, aïe* のように間投詞としてのみ使用される語と、他の品詞からの転用により間投詞として成立する語がある¹。それぞれ「本来的間投詞」(primary interjection)、「副次的間投詞」(secondary interjection) と呼ばれる (Ameka 1992:105)。(1)–(3)はいずれも形容詞であり、「副次的間投詞」に相当する。では、形容詞の環境に現れる *X* という形態と間投詞的に発される *X* はどのような関係にあるのだろうか。この問題に対して、二つの立場が考えられる。一つは形容詞の *X* と間投詞の *X* を別物として、すなわち同じ姿をした異なる二つの存在として捉える立場がありえる。この場合、両者はいわゆる同音（綴）異義語であり、これらを同列に論じ

ることは意味をなさない。もう一つは、両者を同じ一つのものともみなす立場である。この場合、形容詞 *X* と間投詞 *X* の意味価値にはどのような一貫性があるのか、そしてどのような相違があり、それはどのように生じるかを探ることになる。言い換えるならば、*X!* をただ間投詞という品詞に分類するだけでなく、*X* の語彙的な意味と *X* 単独の発話という統語環境が組み合わさって一定の意味価値が生まれると捉えるのである。本稿は後者の立場をとり、分析対象を *chouette* に限定してこの問題に取り組む。形容詞の環境に現れる *chouette* の意味価値自体自明のものでないため、できる限り多くの用例を通してその固有性を導くことを試みる。

論の構成は以下の通りである。以下で本稿が分析対象とするデータを提示し、辞書の記述を整理したのち、名詞 *chouette* から形容詞、間投詞 *chouette* への変遷の時期をつきとめる。2節以降では本稿のデータに基づき、統語的、意味的な記述を行う。2節では形容詞の環境に現れる *chouette*、3節で *Chouette*, *SN!* という構文、そして4節で間投詞とされる、*chouette* 単独の発話を取り上げる。5節はまとめである。

1.1. 使用コーパス

本稿では、用例を収集するために電子コーパス *Base textuelle Frantext* (以下 *Frantext*) を使用した。*Frantext* は2021年9月1日現在で、9世紀から20世紀までの5503の文学作品を収め、2千6百万語を含むフランス語の書き言葉のコーパスである。このコーパス内において *chouette* の生起数は1697である（今回の調査では複数形の *chouettes* を対象としていない）。この数にはフクロウを表す名詞 *chouette* も含まれている。手作業で形容詞ないし間投詞として使用されている *chouette* の例を抽出し、計556例を収集した。このうち、*chouette* 単独で生起する間投詞的な使用が87例あり、それ以外は形容詞の環境、すなわち属詞位置、付加詞位置（前置、後置）、そして後述する *Chouette*, *SN!* の構文に現れる例である。以下では、これらの例に基づいて論を進める。

¹ 共時的には間投詞としての用法のみをもつが、通時的には他の品詞から生まれたものもある。例えば *hélas* は間投詞 *hé* と形容詞 *las* から生じたものである。

1.2. 辞書の記述

まずは主要な大辞典で *chouette* の意味価値がどのようになっているか確認しておきたい。形容詞の *chouette* の起源については猛禽類の一種である、フクロウを指す名詞 *chouette* の比喩的な使用である可能性が指摘されている。*Grand Robert* の《*jolie comme une belle petite chouette*》、*TLFi* の《*une fille publique jolie est une gironde ou chouette*》という例から、美しい女性を形容する比喩であったことが窺える。現代の意味について、*TLFi* は人を形容するときは《*Qui est d'un commerce agréable; dont le comportement est digne d'éloges*》「人付き合いの良い、その振る舞いが称賛に値する」と記述し、物を形容するときは《*Qui est parfait en son genre*》「その分野で完璧な」と解説している。*Grand Robert* は *chouette* の類義語として *agréable*, *beau*, *élégant*, *joli*, *bath*, *épatant* を挙げ、《*c'est digne d'admiration, d'éloge*》「称賛に値する」と注釈している。語源的な意味である美しさから、人付き合いが良い、快適であるといった拡張した意味を獲得していることが確認できる。

一方、間投詞としての *chouette* は、*TLFi* と *Académie française* によると、いずれも満足、喜び (*satisfaction*, *plaisir*, *contentement*) を表すという。*Grand Robert* は類義語として *chic* を挙げている。いずれも簡潔な記述に留まる。

1.3. 名詞から形容詞への歴史的な変遷

TLFi と *Grand Robert* はフクロウを指す名詞 *chouette* が形容詞 *chouette* の起源である可能性を指摘しているが、その出現時期はいつ頃だろうか。また形容詞としての使用が現れる時期と間投詞としての使用が現れる時期は関係があるだろうか。これらの点を明らかにしたい。

Frantext 上では、*chouette* という形態は15世紀後半に名詞として現れはじめる。形容詞としての用法の出現は19世紀を待たなければならない。初出は1837年の Sand による後置付加位置での使用であり、1839年に Flaubert が、そして1847年に Balzac が、同じく後置付加位置でそれぞれ次のように使用している。

- (4) Je ne vous ferai pas attendre le remboursement car j'ai deux tiers de volume d'un livre un peu *chouette* à vous livrer quand vous voudrez. [G. Sand, *Correspondance : printemps-fin décembre 1837*, 1837, p. 289]
- (5) Voilà du romantique un peu *chouette* ! [G. Flaubert, *Correspondance (1830-1839)*, 1839, p. 18]
- (6) Voilà un plan *chouette* et quelque peu rocailleux. [G. Flaubert, *Correspondance (1830-1839)*, 1839, p. 45]
- (7) Il est midi, le baron viendra sans doute après la

Bourse, je vais lui dire que je l'attends, et j'entends qu'Asie lui apprête un diner un peu *chouette*, je veux le rendre fou, cet homme... [H. Balzac, *Splendeurs et misères des courtisanes*, 1847, p. 614]

19世紀後半は Flaubert による例が頻出するが、同時に Goncourt, Zola, Huysmans, Daudet といった様々な作家による使用が現れはじめる。

- (8) Nous y avons couché trois nuits, au pied de ces vieilles bougresses de pyramides, et franchement c'est *chouette*. [G. Flaubert, *Correspondance (1848-1850)*, 1850, p.132]
- (9) Un jeune artiste qui se mariait dans une famille *chouette* et posée, c'était pour eux un habile, un monsieur... Mais aujourd'hui... [E. Goncourt, *Manette Salomon*, 1867, p.433]
- (10) Quelle *chouette* lettre vous m'avez écrite avant-hier ! [G. Flaubert, *Correspondance (1869-1870)*, 1870, p. 102]
- (11) Merci de votre morceau de poésie, mon bon Tourgueneff. Il est *chouette* ! [G. Flaubert, *Correspondance: supplément (janvier-juin 1877)*, 1877, p.306]
- (12) Par exemple, on pouvait appeler ça une idée *chouette* ! [É. Zola, *L'Assommoir*, 1877, p.447]
- (13) Ah ! Elle était *chouette*, comme ça ! [É. Zola, *L'Assommoir*, 1877, p.447]
- (14) il y a un mariage *chouette* au bout de la rue ! [J.-Huysmans, *Les Sœurs Vatard*, 1879, p.290]
- (15) Avez-vous un Corot, un *chouette* Corot ?... je suis toqué de ce peintre-là. [A. Daudet, *Les Rois en exil*, 1879, p.1036]

後置付加位置での使用が大半だが、前置付加位置や属詞位置での使用も見られる。20世紀前半になると、後置付加、前置付加、属詞という形容詞の環境に安定して現れる。よって *chouette* の形容詞としての使用は19世紀後半から20世紀前半にかけて定着したといえる。なお、21世紀までのすべての用例を対象とすると、属詞位置での使用が247例、前置付加位置が132例、後置付加位置が40例となっており、後置付加位置は属詞位置、前置付加位置に比べるとむしろ少ないようだ。

では、*chouette* の間投詞的な使用はどうだろうか。形容詞としての使用が広まり始める19世紀後半に、*chouette* が主語と動詞述語なしで使用される例がいくつかみられる。より詳しくいえば、1870年以降だが、ほぼ同時期といってよい。

- (16) -hop ! Hop ! Gueulait-il, c'est la course des bourriques !... hein ? Très *chouette*, le matin, en hiver ; je fais dodo, je ne m'enrhume pas, j'attrape les veaux de loin, sans écorcher mes engelures... dans ce coin-là, touchée, margot ! [É. Zola, *L'Assommoir*, 1877, p.693]

- (17) Une fois qu'ils eurent fermé la porte, Anatole, qui s'était rincé le porte-pipe et qui paraissait disposé à rire, baisotta sa petite femme sur les tempes, fit des révérences à Désirée et, s'accoudant sur la barre de la croisée, cria: -très *chouette* ! [J.-Huysmans, *Les Sœurs Vataré*, 1879, p.119]
- (18) Je disais à Mélie: "*chouette, chouette* pour demain !" [G. Maupasant, *Contes et nouvelles, t. 1*, 1886, p.577]
- (19) Celui qui parle a des lunettes, le nez long, une barbe épaisse, la bouche moqueuse, la voix éraillée: il s'appelle Rigault.
- *Chouette ! chouette !* un Bonaparte au bloc et les tailleurs n'osant plus réclamer leur bedide node ! Mais pas de blague ! [J. Vallès, *L'Insurgé*, 1886, p.151]
- (20) On arriva.
- c'est ici !
- *chouette !*
- attendez un peu, j'vas toquer. [G. Courteline, *Le Train de 8 h 47*, 1888, p.163]

とりわけ(19)–(20)は *chouette* 単独で発されているという意味で、辞書が間投詞として認定する *chouette* と同一である。これらが形容詞の環境に現れる *chouette* と同時期に使用され始めたことを考慮すると、形容詞と間投詞の *chouette* が密接な関係にあることは間違いない。

2. 形容詞 *chouette*

2.1. 統語的な側面

形容詞 *chouette* の統語的な特徴について整理しておく。まずは基本的な事項として、*chouette* は付加詞として名詞に対して前置することも(21)、後置することも可能であり(22)、また属詞位置に現れることもできる(23)。

- (21) J'en avais eu, *une chouette idée*. [S. Doubrovsky, *Le Livre brisé*, 1989, p.224]
- (22) Par exemple, on pouvait appeler ça *une idée chouette* ! [É. Zola, *L'Assommoir*, 1877, p.447]
- (23) Elle avait dégotté le dernier près des HBM du boulevard Sérurier. Habitations à bon marché, au départ, *l'idée était chouette*. [P. Pécherot, *Belleville-Barcelone*, 2003, p.51]

一見したところ、これらの例においては出現する環境による大きな意味の差異は感じられない。少なくとも *un pauvre homme* 「哀れな男」と *un homme pauvre* 「貧しい男」、*une foutue bagnole* 「忌々しい車」と *une bagnole foutue* 「駄目になった車」といった形容詞に見られるような顕著な違いはない。しかしながら、前置付加位置に生起する文脈で後置付加が不可能である例や、後置付加

位置に生起する文脈で前置付加が不可能な例もある。この問題は2.4節で言及する。

さて、大きな意味の相違を伴うことなく前置付加、後置付加、属詞位置が可能な形容詞は、*excellent*, *admirable*, *super*, *délicieux*, *charmant*, *fantastique* 等、*chouette* 同様、評価的な形容詞が思い浮かぶ²。一方 *chouette* は、これらの形容詞にはない統語的な振る舞いを見せる。少なくとも以下の二つを挙げることができる。

2.1.1. 間接前置付加構造

用例数は少ないが、*chouette* は前置詞 *de* を介した前置修飾が可能である。Winther (2006) に倣って「間接前置付加」(*épithétisation indirecte*) と呼んでおく。

- (24) Je suis allé le chercher à la télé parce que dans l'après-midi, tout en faisant semblant d'écouter la mère Carpentier, j'ai calculé un plan. *Un chouette de plan*. [P. Cauvin, *Monsieur Papa*, 1976, p.160]
- (25) Je l'ai rencontré une fois à la ville, dit Suzanne. La mère ne releva pas. C'était aussi loin que sa jeunesse.
- Il avait *une chouette de bagnole*, dit Agosti, mais pour ce qui était du type... [M. Duras, *Un barrage contre le Pacifique*, 1950, p.345]

この構造を認める形容詞はごくわずかである。よく知られているのは *drôle* である。また *chouette* の類義語でもある *bath* にも例が存在する。

- (26) à mon avis, c'est moche, mais faudra que je me renseigne plus. à la récré, Florence m'a prêté un *bath de livre*. [P. Cauvin, *Monsieur Papa*, 1976, p. 35]
- (27) J'étais seule avec une possibilité d'accueil, ça ne dépendait que de moi, un *drôle de truc*. [C. Barreau, *La confiture de morts*, 2020, p. 87]

Winther (2006 : 140) によると、*chouette* がこの構造で使用されるのは、とりわけ感嘆文においてであるという。

- (28) oh! les *chouettes de bagnoles!*, *chouette de nanal*
ただし Frantext の用例からはそのような傾向は読み取れない。

Winther (2006) は、この構造を Milner (1978) が詳細に分析した N1 (Nom de Qualité) de N2 という構文と同一に捉えている。

- (29) a. un imbécile de gendarme
b. mon crétin de mari
c. bon sang de guerre
d. un putain de vie

Milner (1978) によると、この構文では N1 でなく N2 が主要部名詞 (nom recteur) に当たるといふ。つまり、

² その他の形容詞については Goes (1999 : 119-120) を参照されたい。

la capitale de la France のような場合と反対に、N1 が N2 を修飾する関係にある。chouette de N も前置詞 de が使用されているが、意味的には chouette が N を修飾する関係にあり、その点で N1 (Nom de Qualité) de N2 と共通している。さて、(29)の構造の N1 に生起する Nom de Qualité はそれ単独で罵り、悪態といった発話を実現できる。

- (30) a. Imbécile!
 b. Crétin!
 c. Bon sang!
 d. Putain!

このことは chouette が単独の発話で感情表出を担うことができることと平行的に捉えることができ、興味深い事実である。なお、chouette、drôle はいずれも名詞から派生した形容詞である可能性が高く³、そのため N1 の位置に生起可能な潜在性を備えているのかもしれない。

2.1.2. rien との共起

chouette を特徴づけるもう一つの統語的な特性は、強意を表す rien と組み合わせることである。rien には形容詞を従えて強意を表す用法がある。rien moins que のような特殊な用法の rien について論じた Damar (2006: 130) は、rien + 形容詞における rien は très や vraiment に近い意味価値をもつと述べている。

- (31) rien est parfois employé adverbialement pour renforcer l'adjectif, dans le sens de très, vraiment, comme dans l'exemple *Elle est rien chouette*.

chouette はこの用法の rien と共起可能であり、Frantext 上に 5 例存在する。

- (32) Une femme de 48 ans, bonne mais d'un caractère pittoresque comme la mère Angot, s'écrie : «C'est rien chouette ! Mon mari va devenir mon amant et il me fera des petits cadeaux.» [F. Siefridt, *J'ai voulu porter l'étoile jaune : journal de Françoise Siefridt, chrétienne et résistante*, 2010, p.120]

- (33) Je t'ai apporté un cadeau, qu'il dit à la fille. Regarde. Il enleva la toile goudronnée, montrant le riflard. — Ça te dit ? demanda -t-il. Elle prit l'objet en tremblant. — C'est rien chouette, dit cette jeune fille. [R. Queneau, *Saint Glinglin, précédé de Gueule de Pierre et de Les Temps Mêlés*, 1948, p.220]

この用法の rien と共起する形容詞は限られており⁴、chouette は第一に母語話者が思い浮かべる形容詞であるようだ。なお chouette の類義語である agréable との

共起は Frantext 上では一例も存在しない。chouette の類義語の中で、この rien と相性が良い形容詞は bath である。

- (34) Ah, c'est rien bath, il s'extasie en se penchant sur la lunette. [J. Vautrin, *Bloody Mary*, 1979, p.177]

- (35) - Passque moi, dit Madeleine, passque moi, je vous trouve si belle.- Vraiment ? demanda Marceline avec douceur.

- ça oui, répondit Mado avec véhémence, ça vraiment oui. Vous êtes rien bath. ça me plairait drôlement d'être comme vous. [R. Queneau, *Zazie dans le métro*, 1959, p.189]

TLFi におけるこの用法の rien の項目には、drôle と共起する次の例が挙げられている。

- (36) C'était rien drôle ! [É. Zola, *La Terre*, 1887, p.286]

bath, drôle は前節でみた間接前置付加を認める形容詞でもあり、ここでも chouette と同じ振る舞いをみせる。意味的な面からみると、この用法の rien は感嘆の意味合いがあり、感嘆文のマーカーである combien や qu'est-ce que 同様、いかなる表現をもってしてもその程度を言い尽くせない (indicible) ことの痕跡であると考えることができる。強意の意味価値はそこから生じるものである。chouette がこの用法の rien と相性がよいことは、chouette が感情表出に適した形容詞であることを示唆しているように思われる。

2.2. 意味的な側面

続いて、用例の観察を通して形容詞の環境に現れる chouette の意味を考察する。それぞれの事例ごとに比較的近い意味価値をもつ形容詞を見出しに挙げ、そのヴァリエーションを確認する。しかし、それぞれの意味価値を別物と考えるのではなく、一貫性があり統一的に理解が可能であると想定する。そこで、何が一貫しているのかも含めて検討したい。

beau, joli

語源的な意味である美しさに関わっているとされる例から検討をはじめ。

- (37) Mais, elle, tranquille, se collait des accroche-cœur sur le front avec de l'eau sucrée, recousait les boutons de ses bottines ou faisait un point à sa robe, les jambes nues, la chemise glissée des épaules, dans le désordre de ses cheveux ébouriffés. Ah ! Elle était chouette, comme ça ! [É. Zola, *L'Assommoir*, 1877, p.710]

³ bath に関しては起源が定かでない。

⁴ 言語に関する Q&A サイトの wordreference では、C'est rien beau がノルマンディで使用されていることが報告されているが、一度も聞いたことがないと述べている話者もあり、かなり限られた使用という印象を受ける。(https://forum.wordreference.com/threads/cest-rien-beau.2071055/)

(38) Quand il m'a vu approcher, Roberto s'est détaché du groupe avec lequel il discutait. Ostensiblement, il m'a donné une accolade en proclamant haut et fort qu'il était content de me voir ici. « En plus, t'as une *chouette* veste », a-t-il ajouté, la main posée sur la manche de ma canadienne. [S. Osmont, *Éléments incontrôlés*, 2012, p.291]

(37)は人の容姿、(38)は上着の外見を評価している。いずれも *beau, joli* といった形容詞に近い価値をもつ。ただし *chouette* は、これらの形容詞に比べ称賛 (admiration) の意味合いが強い。Grand Robert の《c'est digne d'admiration, d'éloge》という指摘はこの点を捉えている。つまり、美しさによって引き起こされる感情をも含んだ形で対象を規定しているという捉えかたができる。さて、これらの例においては、話者自身が見た女性、上着に対して発話の場において称賛を表現しており、その感情の主体は話者である。しかしながら、感情の主体は話者に限らない。次の例では、「体型が見事な人は...」という一般論を語っており、話者自身の称賛が表現されているというよりも人が称賛するような体型を指しているものと思われる。

(39) - Faisons un enfant, ma toute.
- Jamais. Un squatter dans mon ventre. Je ne te suffirais pas ?
- Si, tu le sais bien, mais ce serait un prolongement de toi.
- Pas besoin d'être prolongée. Suis pas une ligne de métro.
- Une petite Stella.
- Ne peut y en avoir qu'une et elle n'est pas petite.
- Après nous...
- Après nous, rien. Suis pas une ingrante. Quand on a un corps *chouette*, il faut y faire gaffe. [B. Beck, *Stella Corfou*, 1988, p.38]

この点は形容詞の位置も関わっていると思われる、2.4節で別に検討する。

なお、*beau, joli* で言い換えることができるからといって、*chouette* 自体に美しさの意味が組み込まれているのではない。このことは以下で例を検討することでも明らかになるが、例えば、(38)の *une chouette veste* についていえば、寒さ、衝撃から身を守るといった利便性をもつ上着についても使用できる。

sympa

chouette が見た目の美しさに限らないことは以下の例からも明らかである。これらは人の容姿でなく、性格について述べている。

(40) Simone était major de la promo. Elle était très sérieuse, avec un humour froid, presque noir. Elle

était très *chouette* comme camarade et brillante élève. [A. Dupuy, *Journal d'une lycéenne sous l'Occupation : Toulouse, 1943-1945*, 2013, p.82]

(41) je l'aimais ce vieux singe... ça m'aurait fait plaisir de concourir à sa cérémonie ... Ah ! pour un qui avait du vice, c'en était un celui -là... et comme le mâtin jouait de l'attrape-nigaud... Jeune homme, c'est moi, le Recousu, qui te le dis : tu as eu là un *chouette* papa...

これらの例の *chouette* は *sympa* に言い換えることが可能であり、TLFi の《Qui est d'un commerce agréable》という記述が当てはまる。すなわち接するものに快さを感じさせる性格である。これらの例においても称賛の意味合いを読み取ることができるが、同時に快さという意味でも関与する主体の側の感情を見て取れる。

次の例も *sympa*、あるいは *gentil* と非常に近い価値をもつ。しかしこれらの場合、性格でなくその場の振る舞いが問題になっている。

(42) Il est seulement ému parce qu'il trouve que vous ressemblez à sa mère. Et le lardon qui criait... Un écorché ! Je sors un billet de ma poche et le tends à la fille. Un billet de dix sacs. - Tenez, je lui dis. Prenez ça, soyez *chouette*, et donnez à boire au petit. [B. Blier, *Les Valseuses*, 1972, p.66]

(43) La patronne, pas fraîche, nous tend la bouteille, puis une deuxième en douce, et elle dit à Roger, à l'oreille: « Ecoute, mon grand, tu veux pas ma mort ? Alors, sois *chouette*, laisse tomber. [F. Cavanna, *Les Ritals*, 1978, p.156]

(44) Non, pas demain, c'est dimanche : inutile de me fourrer dans les pattes des promeneurs attardés. Je filerai après-demain. Providence, soyez *chouette*, faites qu'il ne pleuve pas ! [H. Bazin, *La Tête contre les murs*, 1949, p.201]

ここでは *chouette* が être を用いた命令文の属詞位置に現れている。sois / soyez *chouette* は fais / faites-moi plaisir にも近く、話者を喜ばせるよう振舞うことを要求していると理解できる。話者が対話者に望む具体的な行為は、前後に生起する命令文によって指示されている。

agréable

気候の快適な側面もまた、*chouette* の守備範囲内である。

(45) C'était en mai, avril, dans ces eaux -là. Une *chouette* après-midi ensoleillée. Il faisait bon. [Bayon, *Le Lycéen*, 1987, p.295]

晴れた午後が快い、快適であるといったことを述べていると理解でき、Grand Robert が類義語として挙げる、*agréable* に相当する性質を読み取ることができる。快

さを引き起こすという点では、人の性格に言及する *chouette* と同様にみなすことができる。

bon

次の例は *bon* に言い換えることが可能だが、やはり対象と関わる主体の感情が強く現れている。

- (46) Vous ne lui avez pas filé de la gnôle, au moins ? — Non, dit Jérémy, la surprise, c'est autre chose. Je regarde Julius. Gueule de travers et langue pendante: impénétrable. — En tout cas, vous n'avez pas lavé Julius. Ça, ça aurait été une *chouette* surprise ! [D. Pennac, *La Fée Carabine*, 1987, p. 243]
- (47) Depuis qu'elle était en ménage avec Lema, Aude Beaupréau collectionnait les palaces. Elle avait dégotté le dernier près des HBM du boulevard Sérurier. Habitations à bon marché, au départ, l'idée était *chouette*. Construire des immeubles au loyer pas cher pour les travailleurs, on pouvait qu'être pour. [P. Pécherot, *Belleville-Barcelone*, 2003, p.51]

(46)の *chouette* surprise は話者を喜ばせるであろう、思いがけない事態を述べている。(47)は低家賃住宅の建設という発想が人々を満足させるものであったと理解できる。なお、(47)では、「on pouvait qu'être pour.」「人々は(この発想に)賛成でしかなかった」という言明から、話者個人というよりもその社会にいる人一般の視点に立っていると考えられ、感情の主体は人一般であるといえる。

idéal, parfait

以下の例は、*idéal* や *parfait* に近い意味を担っている。

- (48) Et comment j'ai fait pour me rendre maître de cette jolie combine ? — Vous avez tué Geiger pour ça. La nuit dernière, pendant l'orage. C'était un *chouette* temps pour faire un carton. [B. Vian, *Le Grand sommeil*, 1948, p.94]
- (49) L'eau froide, c'est un peu *chouette*, pour garder la ligne, vous savez ? [R. Fallet, *Le Triporteur*, 1951, p.194]

(48)では、雷雨という天候が銃を撃つという目的に適したタイミングであったことを述べている。(49)も同様に、体型を保つという目的から冷水が適していることを述べている。これらの例においては、これまでの例で確認できた、称賛、快さ、喜びといった感情が見当たらないように見える。しかし *pour* 以下で述べられた目的をもつ主体を想定すると、雷雨という天候、冷水はその主体を満足させる性質をもつといえる。そして、これらの例では感情の主体は話者でなく、銃を撃つもの(ここでは対話者)、体型を保つという目的をもつ人(一般)である。

super, génial, cool

以上の *chouette* の例は、比較的具体的な性質を表す形容詞に近い解釈を担うものであった。では次の例はどうだろうか。

- (50) C'est ça ou être intolérable. Surtout, surtout, quelle horreur, les gens qui viennent s'épancher secrètement... « À vous, je puis bien le dire, vous saurez me comprendre. » C'est fatigant. L'autre dimanche, nous avons vu BONNIE AND CLYDE, finalement sorti. C'est un très *chouette* film. Jean-Pierre, devenu un jeune bœuf, vient déjeuner tout à l'heure. [J.-P. Manchette, *Journal: 1966-1974*, 2008, p.47]
- (51) Je pense qu'avec un peu de chance, tombant un jour d'embauche à la plonge des wagons-restaurants, je pourrai peut-être me compter parmi ces innombrables qui embarquent pour ailleurs. L'Espagne, ce doit être *chouette* ! Digressions sur rêveries. [A. Simonin, *Confessions d'un enfant de La Chapelle. I, Le faubourg*, 1977, p.221]

(50)では、先行する文脈で映画のタイトルが示されているだけで、具体的に映画のどのような側面が評価されているか不明である。物語の展開、出演している俳優、映像の美しさ、いずれでもあり得る。(51)でも、前後にスペインに関する記述がなく、スペインという国の景観が美しい、その気候が快適である、そこでは人が良い、食事が美味しい等様々な側面が考えられる。どの側面に基づいているか、そもそも話者にとってさえも明確にできない可能性もある。別の形容詞で言い換えるならば、*super*, *génial*, *cool* といった、同じく特定の性質に限定しない形容詞が合致する。一方、映画、スペインは鑑賞する主体、滞在する主体に満足を与えるものであり、対象が主体にもたらす影響は一貫している。

ただし、*chouette* が表す感情はどんな性質によってももたらされ得るわけではないようだ。料理に関する次の例で示してみたい。

- (52) Douze heures de retard seulement. - bravo, l'intendance ! Cria Chouteau. - n'importe, ça y est ! Dit Loubet. Ah ! Ce que je vais vous faire un *chouette* pot-au-feu ! [É. Zola, *La Débâcle*, 1892, p.25]

ここでは *chouette* がポトフを修飾しているが、ただ「美味しい」ということを問題にしているのではない。実際、ポトフを食べて《Ton pot-au-feu est *chouette* !》は適していない。*chouette* はただ味のみによって得られる満足を表すことは困難である。un *chouette* pot-au-feu は盛り付け、色合い、素材の良さ等、ポトフに期待される様々な要素が考えられる。

同じく飲食物を修飾する例としてコーヒーに関する例もみておきたい。

- (53) Quand tu es partie, Josy et Lola étaient encore là ? -

Non, pensez -vous ! elles étaient tirées depuis une heure au moins avec trois clients, des espèces de Chinetoques ou d'Hindous, dans une bagnole américaine grande comme un wagon. J'ai bu le café. Il était *chouette*, bouillant. ça m'a encore regonflé. [A. Simonin, *Touchez pas au grisbi*, 1953, p.41]

この例でも、美味しいことは含まれているがそれだけではない。bon と異なり、*chouette* という評価は《bouillant》「非常に熱い」《Ça m'a encore regonflé》「再び元気になった」という事柄に関わっているという含みがある。この場合、このコーヒーが非常に熱い、または元気してくれたことで話者がこのコーヒーに満足していることが読み取れる。

2.3. 形容詞 *chouette* と間投詞 *chouette* の接点

以上のように *chouette* の意味価値には広がりがあるが、いずれも対象が主体に与える影響をみてとることができる。*chouette* が言及する対象は、それに関わる主体に称賛、快さ、喜び、満足といった好意的な感情を引き起こすものであるといえる。そこに間投詞 *chouette* との接点を指摘できる。間投詞 *chouette* には喜び、満足という感情表出が指摘されるが、形容詞の *chouette* にも同種の感情を認めることが可能なのである。

形容詞 *chouette* が間投詞に近い意味を担い得ることは、次のような *c'est chouette* の例でとりわけ観察できる。

- (54) je colle bien à lui, je fais gaffe pas me gourer pas détonner, pauvre con de Français sans oreille je suis, et lui, comme si de rien, mais je sens qu'il est d'accord, qu'il m'accepte, et c'est très *chouette*, j'en tremble de bonheur. [F. Cavanna, *Les Russkoffs*, 1979, p.235]
- (55) Quelques films vus à la télévision MÉFIEZ-VOUS, MESDAMES (Hunabelle), merdeux ; LES GRANDS ESPACES (Wyler), merdeux. Mélissa et moi sommes fatigués. Mais nous nous aimons. *C'est chouette*. [J.-P. Manchette, *Journal: 1966-1974*, 2008, p.396]
- (56) Nous devons recevoir à dîner lundi les Zylberstein, bon prétexte pour acheter du scotch ordinaire et du Glenfiddich, et de la vodka. Depuis que j'ai fini le premier jet de NADA, je me repose autant que possible et *c'est chouette*. [J.-P. Manchette, *Journal: 1966-1974*, 2008, p.554]
- (57) Huit cents francs, c'est juste ce que je gagne par mois comme manipulant auxiliaire. Maman m'a fait cadeau de ma paie d'un mois pour le vélo, *c'est chouette*, d'habitude je lui donne tout. [F. Cavanna, *Les Russkoffs*, 1979, p.53]

これらの例において *c'est chouette* は、先行文脈で描か

れた状況に対する話者の喜びや満足といった感情が表されているといえる。これらの例の *chouette* は être の属詞位置にあり、確かに形容詞であるが、意味的には間投詞に非常に近いといえる。なお、これらの例の *chouette* にうまく置き換わる形容詞は *super*, *génial*, *cool* である。

次の例でも、*c'est chouette* によって喜びが表出されているが、対話者への祝福という発話行為を行っている点が(54)–(57)とは少し異なる。

- (58) Sinon, Josy m'a dit que vous aviez déjà un nouveau fiancé ? Elle vous a dit ça aussi ? Euh... oui. (d'une voix embarrassée et, en même temps, son sourire talmudique tout à fait perceptible à l'autre bout du fil). — *C'est chouette* ! J'avais peur que vous soyez vraiment malheureuse. [G. Bouillier, *Le dossier M. Livre 2*, 2018, p. 630]
- (59) Dis -moi que j'ai encore une chance. Dis -moi que tout ceci est encore un putain de Truman Show à la con !) Ah bon ? Au printemps prochain ? Si vite ? Ah. Okay. Bravo, trouvai -je la force d'articuler. *C'est chouette*, la félicitai -je d'une voix mourante. [G. Bouillier, *Le dossier M. Livre 2*, 2018, p.473]

これらの状況では *c'est bien* を使用することもできる。しかし *c'est bien* に比べ、*c'est chouette* には話者自身の喜びが表出されており、その喜びを対話者と共有しようとしている。

2.4. 前置付加と後置付加

chouette の前置付加と後置付加の差異を統一的に説明するまでには至っていないが、現時点で分かっていることを記す。ただし母語話者一名のみに判断を仰いでいるため、個人差の影響がある可能性を加味しなければならない。

Frantext の用例では、前置が132例、後置が40例と前置位置のほうが後置位置よりも多い。以下はすでにみた前置付加の例だが、後置付加にすると不自然になるようだ。

- (38) a. Quand il m'a vu approcher, Roberto s'est détaché du groupe avec lequel il discutait. Ostensiblement, il m'a donné une accolade en proclamant haut et fort qu'il était content de me voir ici. « En plus, t'as une *chouette* veste », a -t-il ajouté, la main posée sur la manche de ma canadienne. [S. Osmond, *Éléments incontrôlés*, 2012, p.291]
- b. *En plus, t'as une veste *chouette*.

一方同じく既出の、後置付加の次例では前置付加にすると不自然である。

- (39) a. - Faisons un enfant, ma toute.
- Jamais. Un squatter dans mon ventre. Je ne te suffis pas ?

- Si, tu le sais bien, mais ce serait un prolongement de toi.
- Pas besoin d'être prolongée. Suis pas une ligne de métro.
- Une petite Stella.
- Ne peut y en avoir qu'une et elle n'est pas petite.
- Après nous...
- Après nous, rien. Suis pas une ingrante. Quand on a un corps *chouette*, il faut y faire gaffe. [B. Beck, *Stella Corfou*, 1988, p. 38]

b. *Quand on a un *chouette* corps, il faut y faire gaffe. 両者の違いを考えてみると、前置付加の(38)では話者は発話の場で認識した対話者の上着を称賛しているのに対し、後置付加の(39)では目の前に *chouette* で形容される体型をした人物がいるわけではなく、一般論を語っている。目の前にいる特定の人物に対する称賛として言うのであれば、前置付加した《Tu as un *chouette* corps.》は自然である。また対話者についてである必要はなく、第三者について《Il a un *chouette* corps.》ということもできる。さらに主述構造を欠く《*Chouette* corps!》も可能である。この場合《Corps *chouette*!》とすることはできない。このことから、発話時に引き起こされた話者の感情を伴う場合に前置付加が使用され、そうでない場合に後置付加が使用されると予想できる。しかしながら、前置付加の用例すべてがこの特徴をみせるかといえは、必ずしもそうでない。例えば次の例の *chouette* femme は推測であり、発話時に称賛が行われているとはいえない。このような例はいくつかある。

- (60) Alors, Sanchez, je dis en m'approchant de lui. Comment t'expliques ça ? Le tutoiement le fit sursauter. Il devina qu'on entrerait dans la seconde mi-temps. — Ben, vè, je m'explique pas. Y a jamais eu d'engatse. — Écoute, je dis en me raseyant. T'as une famille. De beaux gosses. Une *chouette* femme, sans doute. [J.-C. Izzo, *Total Khéops*, 1995, p.190]

したがって、前置付加と後置付加の選択に関与する要因は他にも存在すると考えられる。

3. Chouette, SN !

chouette には次のような構造の発話も存在する。

- (61) Jumelles braquées, souffle suspendu, sucepince haultant... — *Chouette, la mise en scène*, murmure Jérémy. [D. Pennac, *Monsieur Malaussène*, 1995, p.613]
- (62) Je dis : « Superbe ! - Et mon manteau ? C'est moi qui l'ai fait. - *Chouette, la couleur...* » [D. Belloc, *Néons*, 1987, p. 69]
- (63) (...) lui pénétrait dans une pièce et tous les autres oc-

cupants, sans même y penser, savaient qu'elle allait suivre, forcément: *Chouette, Julie, ta nouvelle coiffure*, lui s'asseyait, déployait sa serviette, disait qu'elle serait un peu en retard, (...) [J. -L. Benoziglio, *La voix des mauvais jours et des chagrins rentrés*, 2004, p.85]

- (64) Voici qu'elle vient d'enfiler une tenue de bain. Deux pièces le maillot. Noir le bikini. Minuscules ses seins. Magnifique son déhanché. Bouleversante son échancreure intercondylienne. *Vraiment chouette la baigneuse*. [G. Bouillier, *Le dossier M. Livre 2*, 2018, p. 850]
- (65) Elle tomba, voulut se sauver à quatre pattes ; mais il la cingla de nouveau et la remit debout. - hop ! Hop ! Gueulait -il, c'est la course des bourriques !... hein ? *Très chouette, le matin, en hiver* ; je fais dodo, je ne m'enrhume pas, j'attrape les veaux de loin, sans écorcher mes engelures... [É. Zola, *L'Assommoir*, 1877, p.692]

構造的には、これらは主語に当たる名詞句がなく、動詞述語も存在しないため、その点においては間投詞の *chouette* と共通する。しかしながら、名詞句が後続する点において間投詞の *chouette* と異なる。この構造は、Le Goffic (1993 : 514) が《Adj prédictat-GN sujet (ou thème)》「述語形容詞－主語名詞句 (あるいは主題)」と呼ぶタイプの構造に相当し、後続する名詞句は主題である。つまり、述語である *chouette* が「それについて言及する対象」(ce dont on parle) である。

この構文は一種の感嘆文であるといえるが、感嘆文について論じた Dhorne (2003 : 10) によると、この構文に現れる形容詞は最上級の価値を持つ形容詞、つまり甚だしい程度が語彙的に内在する形容詞である。

- (66) Excellent, ce café ! / *Bon, ce café ! / *Sucre, ce café !
Genial, le mec ! / ?Intelligent, ce garçon !

ところが *chouette* には甚だしい程度が語彙的に内在しているとは言いがたい。一般に最上級の価値をもつ形容詞は très による修飾を受け付けられないという特徴をもつが、*chouette* は très による修飾を問題なく受け付ける。そうでありながら、この構文に出現可能であるという点において、*chouette* と感嘆との親和性が確認できる。*chouette* の類義語である *sympa*, *beau*, *agréable* のうち、*sympa* はこの構文に現れることが可能だが、*beau*, *agréable* は自然さを欠く。

- (67) a. *Chouette*, ce quartier !
b. *Sympa*, ce quartier !
c. ??*Beau*, ce quartier !
d. ??*Agréable*, ce quartier !

意味的な面からは次のことが言える。(61)–(64)では外見の美しさ、(65)では感覚的な快さに言及しており、付加詞

位置、属詞位置の *chouette* と同様の意味価値が確認できる。さらに、この構造における *chouette* には、話者の感情が対象の認識と同時に引き起こされているという特徴がある。これを「即時性」と呼ぶことにする。即時性が不在の場合に *Chouette, SN!* を使用することは不自然である。このことを(63)の例に基づいて確認しよう。この例の話者が、後日ある友人とジュリーについて話しながら彼女の髪型について話している場面を想定する。

(68) Au fait, tu sais, elle a changé de coiffure.

a. **Chouette, sa nouvelle coiffure.*

b. *Elle est chouette, sa nouvelle coiffure*

この場面では、*Chouette, SN!* は不自然であり、主語と動詞述語を用いる必要がある。前節で、発話時に引き起こされた話者の感情を伴う場合に前置付加されることを指摘したが、必ずしもそうでないことも述べた。それに比べ、*Chouette, SN!* と即時性は分かちがたく結びついているといえる。

4. 間投詞 *chouette*

4.1. 統語的な側面

4.1.1. 主題の不在

間投詞とみなされる、単独で発話を構成する *chouette* (以下 *Chouette!* と表記する) は、主語と動詞述語が不在であるという点で、前節で取り上げた *Chouette, SN!* と共通しているが、何について *Chouette!* と発されているか言語的に明示されていない点異なる。形容詞一語のみで発されるという統語構造は、表面的には次のような形容詞単独の発話と共通している。

(69) Tu as déjà goûté leur chewing-gum ? *Délicieux !* Tu mâches et tu mâches. Je trouve que ça apaise. [C. Schmit, *Kinderland*, 2017, p.337]

(70) Un policier l'a vu.

- *Dégueulasse ! Lève-toi, tu nettoieras !*

(71) Et toi, reprend-il, tu as survécu ! *Fantastique !* [R. Antelme, *L'Espèce humaine*, 1947, p.310]

これらは Lefeuvre (1999) が《phrase averbale à sujet implicite》「言外の主語をもつ非動詞文」と呼ぶものに相当する。すなわち、言語化されていないが暗黙に存在する主語(主題)を備えているとみなすことができる。実際、これらの形容詞単独発話は主語と動詞述語を加えて表面的には現われていない主語を復元可能である。

(72) Il est délicieux !

(73) Tu es dégueulasse !

(74) C'est fantastique !

一方、*Chouette!* は主述を復元することが不可能である。先行する状況や文脈を漠然と受けることが可能な *c'est* を用いることも難しい。

(75) a. Bien qu'hébétés de sommeil, ce lever en fanfare,

parmi cette troupe de saltimbanques en goguette, leur sembla tenir du joli rêve. « *Chouette !* une fête la nuit ! » se réjouissait Jean - Yves, neuf ans. [G. Halimi, *Le lait de l'oranger*, 1988, p.230]

b. ??*C'est chouette !* une fête la nuit !

(76) a. Zizi tâte ses poches, méticuleusement, avec une lenteur de gestes due à la gêne des menottes : il en tire un tas de petits paquets, qu'il pose à mesure sur mes genoux. « Oh ! Des chewing-gum, *chouette !*... » [A. Sarrazin, *La Cavale*, 1965, p. 351]

b. ??*Oh !* Des chewing-gum, c'est *chouette !*

2. 3節で、*c'est chouette* が *Chouette!* 同様、満足、喜びを表すことが可能であることを指摘したが、両者は必ずしも等価でなく、交換不可能な場合があることを示唆するものでもある。ところで、(75)(76)の a の周辺にみられる、*une fête* や *des chewing-gum* は、一見すると、*Chouette, SN!* の SN に類似しており、主題とみなすことができないだろうか。この点は次節で論じる。

4.1.2. 周辺に現れる要素

Chouette! の前後にまで観察を広げると、*Chouette!* と発される時、常にその発話の契機となる状況が存在する。この発話の契機は *Chouette!* の前後で明示される。

(77) C'était l'occasion de nous revoir. Trois points de suspension. Cinq minutes plus tard, je recevais un smiley. *Chouette.* J'étais sauvé, du moins pour cette nuit. [G. Bouillier, *Le dossier M. Livre 2*, 2018, p.380]

(78) *Chouette, s'épanouit Baboulot, y a des escargots et de l'andouillette.* [R. Fallet, *Le Braconnier de Dieu*, 1973, p.155]

発話の契機となる状況は話者が発話の場で新たに気づいた事態や存在であり、話者が予期していなかったことである。何かを発見した際に即時的に発される、名詞句単独発話 が *Chouette!* の前後に頻繁に現れることも、*Chouette!* と新たな状況の生起が密接にかかわっていることを示唆している。既出の(75)(76)や以下のような例がそれにあたる。

(79) On a frappé à la porte de son bureau, il a dit : oui, entrez, et quand il a levé les yeux elle s'avancait vers lui sur ses béquilles. Alors il a pensé: *chouette ! Une boiteuse.* [E. Carrère, *D'autres vies que la mienne*, 2009, p.189]

(80) J'ai retiré ma main gauche de la concasseuse en faisant tourner très lentement la manivelle à l'envers, parce que c'est quand même une sensation bizarre que d'avoir deux doigts pris dans des rouleaux broyeurs. J'ai pensé: "*Chouette ! Un accident du travail !*" Je ne suis pas une mauviette. [Y. Szczupak-thomas, *Un diamant brut Vézelay-Paris 1938-1950*,

2008, p.82]

- (81) Les baigneuses s'en serviront de paravent
Pour changer de tenue, et les petits enfants
Diront: « *Chouette ! un château de sable !* » [G. Bras-
sens, *Poèmes et chansons*, 1973, p.186]
- (82) Premier Voyageur (s'adressant au public): *chouette !*
Une place libre ! [R. Queneau, *Exercices de style*,
1947, p.82]
- (83) « Jane, si le hasard veut que je vous rencontre, de-
hors, accepterez-vous un verre ou changerez-vous
de trottoir ?
— Je dirai : « Garçon, la même chose ! »
— *Une biture, chouette !* [A. Sarrazin, *La Cavale*,
1965, p.188]
- (84) Mais v'là le café qui est prêt, caporal Toriotte. Sent-
y bon ?... Appelez-voir vos bonhommes, qu'on le
prenne en chœur le café-là, avec une bonne goutte
de prunelle que vot'femme m'a fourrée de force
dans ma poche du dessous quand je suis partie.
Chouette alors, de la prunelle !! [G. Chepfer, *Saynètes*,
paysanneries 2, 1945, p.98]

では、こうした新たな状況と Chouette !はどのような関係にあるだろうか。素朴に言えば、Chouette !は、新たに生じた状況 “について” 述べる発話である。その意味で、これらは Chouette !にとって主題 (thème) であるということが出来る。間投詞の叙述機能を主張する Vaguer (2019 : 9) はそのような立場をとる。

- (85) Les interjections, en tant que prédicat, sont porteuses de sens : elles disent quelque chose de quelqu'un ou de quelque chose d'autre. Elles apportent une information sur un « thème » implicite, souvent identifiable dans le contexte linguistique ou la situation de discours (cf. § 3).

しかしながら、少なくとも構造的には、通常の意味での主題とは区別すべきであると考えられる。このことは Chouette, SN !における名詞句と対比するとよくわかる。Chouette, SN !における名詞句は *chouette* がそれについて述べる対象、すなわち主題であると述べたが、この名詞句と Chouette !に前後する(79)–(84)のような名詞句には次のような違いがある。Chouette !の前後に現れる名詞句は、発話としての自立性が高く、独立した一つの発話を構成している。このことは以下のように、感嘆符によって区切られていることから伺える。

- (79) Alors il a pensé: *chouette ! Une boiteuse.* [E. Carrère, *D'autres vies que la mienne*, 2009, p.189]
- (80) “*Chouette ! Un accident du travail !*” Je ne suis pas une mauviette. [Y. Szczupak-thomas, *Un diamant brut Vézelay-Paris 1938-1950*, 2008, p.82]

ヴィルギュールで区切られた例も以下のように存在する

が、名詞句は発見を行う発話として、その自立性が高い。
(76) Oh ! *Des chewing-gum, chouette !* [A. Sarrazin, *La Cavale*, 1965, p.351]

(83) — Une biture, *chouette !* [A. Sarrazin, *La Cavale*, 1965, p.188]

(84) *Chouette* alors, de la prunelle !! [G. Chepfer, *Saynètes, paysanneries 2*, 1945, p.98]

実際、これらのヴィルギュールを感嘆符に変更しても自然に解釈できる。

(76)' Oh ! Des chewing-gum ! *Chouette !*

(83)' Une biture ! *Chouette !*

(84)' *Chouette* alors ! de la prunelle !!

それに対し、Chouette, SN !における名詞句を感嘆符で区切って独立した発話とすることは不可能である。

(61)' **Chouette !* la mise en scène !

(62)' **Chouette !* la couleur !

(63)' **Chouette !* Ta nouvelle coiffure !

つまり、発話の契機は Chouette !から独立した発話としては実現可能であるが、主題として Chouette !の内部に組み込むことができないということである。このことと、他に主題に当たる要素を認めがたいことから、Chouette !という発話は、主題を持たない構造を成す発話であると考えられる。さて主題とは、話者と対話者が共有し、発話の出発点となるものである。その要素が不在であることは、Chouette !が対話者を想定せず、話者の領域に閉じこもった発話であることを示しているように思われる。このことは間投詞一般に指摘される独話的な性格に通じるものである。ただし、現実には対話者の存在を意識して発することもあるため、間投詞発話の対話者は、他の種類の発話における対話者とステータスが異なると捉えたほうが実情に即していると思われる。一つの捉え方として間投詞発話の対話者は、話者の発話内容に対して、同意や反論するものとして想定されておらず、話者の発話をただ眺める傍観者であるという見方が可能である。種々の間投詞を分析した Anscombe (2009 : 20) は、悪態語について同様の指摘をしている。

- (86) Un problème particulier à ces interjections est que si leur « énonciateur » se confond avec leur locuteur, la question du destinataire est plus délicat. Les personnes présentes ne sont qu'allocutaires, témoins du discours.

このように考えるならば、このことが実際の言語使用にどのように現れるか、Chouette !と主体間関係を調整するマーカーは共起可能か、といった新たな問いが生じる。今後の検討課題としておきたい。

4. 1. 3. alors との共起

Chouette !は alors と共起することがある。

- (84) Mais v'là le café qui est prêt, caporal Toriotte. Sent -

y bon ?... Appelez - voir vos bonhommes, qu'on le prenne en chœur le café -là, avec une bonne goutte de prunelle que vot'femme m'a fourrée de force dans ma poche du dessous quand je suis partie. - *Chouette alors*, de la prunelle !! [G. Chepfer, *Saynètes, paysanneries 2*, 1945, p. 98]

(87) Alors ça pouvait être que pour obéir à un ordre. Un ordre de qui ? De son boss pardi, comme dans « Drôles de dames » à la télé. Le boss, c'est connu, y donne des ordres à ses agents mais lui on le voit jamais. C'était sûrement ça ! *Chouette alors !* je me suis dit. [F. Seguin, *L'Arme à gauche*, 1990, p.12]

(88) Olivier avait un faible pour le vélo-porteur à frein sur moyeu qui lui permettait toutes sortes d'acrobaties vélocipédiques. - Olivier, va porter ce relevé rue Hautefeuille et tâche de revenir avec le chèque. - *Chouette alors !* - Et ne traîne pas trop. [R. Sabatier, *Les Fillettes chantantes*, 1980, p.57]

この *alors* は以下のような論理関係を表す *alors* ではない。

(89) Ta voiture est en panne ? *Alors*, prends la mienne. [ロワイヤル仏和辞典]

むしろ、間投詞としばしば共起する *alors* であり、以下がその例である。

(90) Chic *alors !*

(91) Mince *alors !*

(92) Zut *alors !*

(93) Merde *alors !*

(94) Ça *alors !*

zut,merde からわかるように、*alors* を伴うのは形容詞から派生した間投詞に限らない。Franckel(1989 : 359)はこの用法の *alors* について、予想外の、新たな状況への定位を構築するものとしている。

(95) A partir d'une situation dans laquelle un événement donné est attendu ou envisagé, *alors* construit le repère d'une nouvelle situation, à la fois issue et décrochée de la précédente, dans laquelle l'attendu ne se produit pas, l'envisagé devient inenvisageable ou hors de question, de l'inattendu se produit. C'est à partir de ce repère que se construit l'énoncé exclamatif (marquant la surprise, l'impatience, la colère etc.).

このことを次のように解釈する。間投詞が発される際には、それまで存在しない、想定していなかった状況が生じており、その新たな状況に間投詞の発話を位置付けようとするために *alors* が使用される。ただし、Ça *alors !* 以外は *alors* が必須ではなく、*alors* の有無による意味的な差異も感じられない。Chouette!!にも同じことがいえる。よって、Chouette!!はそれ自体、新たな状況への

位置付けを行うことができる働きをもっていると考えておきたい。

4. 1. 4. trop との共起

間投詞は通常、いかなる程度修飾も受け付けない。

(96) a. *un peu / *assez / *très / *trop zut !

b. *un peu / *assez / *très / *trop aïe !

c. *un peu / *assez / *très / *trop youpi !

一方 Chouette!!に関しては *trop* による修飾を受け付ける。

(97) *un peu / *assez / *très / trop *chouette !*

Frantext の用例には存在しないのだが、Frantext の用例に *trop* を加えて母語話者に尋ねたところ、多くの例で容認されることが確認できた。

(75) a. Bien qu'hébétés de sommeil, ce lever en fanfare, parmi cette troupe de saltimbanques en goguette, leur sembla tenir du joli rêve. « *Chouette !* une fête la nuit ! » se réjouissait Jean - Yves, neuf ans. [G. Halimi, *Le lait de l'oranger*, 1988, p. 230]

b. « Trop *chouette !* une fête la nuit ! »

(76) a. Zizi tâte ses poches, méticuleusement, avec une lenteur de gestes due à la gêne des menottes: il en tire un tas de petits paquets, qu'il pose à mesure sur mes genoux. « Oh ! Des chewing-gum, *chouette !* Attends, je mâche tout de suite, parce que ça la matonne va me le confisquer. (...) » [A. Sarrazin, *La Cavale*, 1965, p.351]

b. Oh ! Des chewing-gum, trop *chouette !*

trop による修飾が可能であることは、Chouette!!が形容詞的な性格を備えていることを示唆している。他方で、形容詞の *chouette* と異なり、Chouette!!が受け付ける程度修飾は *trop* のみである。では他の程度修飾が不可能で *trop* のみが可能であることは何を意味するだろうか。*trop* にはある観点から望ましい程度を超えている (よって望ましくない) ことを表す用法と、予想しうる範囲を超えた程度を表す用法がある。後者は誇張法の一つであるともいえる。

(98) Il fait trop chaud (pour sortir).

(99) Elle est trop belle !

Chouette!! と共起する *trop* は後者に当たる。これは、Chouette!!が予期せぬ状況に直面したことによって引き起こされた感情を表すことに起因すると考えられる。

4. 2. 意味的な側面

最後に Chouette!!の意味価値を考察する。Chouette!!は、辞書が指摘するように、確かに満足、喜びといった感情を表出する。

(75) Bien qu'hébétés de sommeil, ce lever en fanfare, parmi cette troupe de saltimbanques en goguette,

leur sembla tenir du joli rêve. « *Chouette!* une fête la nuit ! » se réjouissait Jean - Yves, neuf ans. [G. Halimi, *Le lait de l'oranger*, 1988, p.230]

(76) Zizi tâte ses poches, méticuleusement, avec une lenteur de gestes due à la gêne des menottes : il en tire un tas de petits paquets, qu'il pose à mesure sur mes genoux. « Oh ! Des chewing-gum, *chouette!* Attends, je mâche tout de suite, parce que ça la matonne va me le confisquer. (...) » [A. Sarrazin, *La Cavale*, 1965, p.351]

(80) J'ai retiré ma main gauche de la concasseuse en faisant tourner très lentement la manivelle à l'envers, parce que c'est quand même une sensation bizarre que d'avoir deux doigts pris dans des rouleaux broyeurs. J'ai pensé: "*Chouette!* Un accident du travail !" Je ne suis pas une mauviette. [Y. Szczupakthomas, *Un diamant brut Vézelay-Paris 1938-1950*, 2008, p.82]

(75)では、深夜にパーティに参加できること、(76)では、対話者がチューイングガムをもっていること、そして(80)では、労働事故にあったことに対する話者の喜びが表されている。*Chouette!*に置き換わる形容詞は *Super!*, *Génial!*, *Cool!*である。この三つの形容詞はどの *Chouette!*の例においても、取って代わることが可能であるようだ。(54) - (57)の *c'est chouette* においてもこの三つの形容詞が *chouette* に取って代わり得ることを述べたが、このことから *c'est chouette* と *Chouette!*が意味的に近い関係にあることが確認できる。

*Chouette!*が表す感情は、状況を認識すると同時に引き起こされている、つまり即時性がみられることも指摘しておきたい。*Chouette*, *SN!*に関しても即時性が本質的な特徴であったことを考慮すると、即時性は動詞述語が不在であることに関わっていると考えることができる。実際、動詞文における属詞位置や付加詞位置に生起する *chouette* には必ずしもこのような特徴はみられない。動詞述語の有無という観点からは *c'est chouette* との対比が興味深い。*c'est chouette* が話者の喜びを表すことができ *Chouette!*に近い価値を持ち得ることを指摘したが、*Chouette!*と *c'est chouette* の違いはどこにあるだろうか。例を再掲する。

(54) je colle bien à lui, je fais gaffe pas me gourer pas détonner, pauvre con de Français sans oreille je suis, et lui, comme si de rien, mais je sens qu'il est d'accord, qu'il m'accepte, et c'est très *chouette*, j'en tremble de bonheur. [F. Cavanna, *Les Russkoffs*, 1979, p.235]

(55) Quelques films vus à la télévision MÉFIEZ-VOUS, MESDAMES (Hunabelle), merdeux ; LES GRANDS ESPACES (Wyler), merdeux. Mélissa et moi som-

mes fatigués. Mais nous nous aimons. *C'est chouette*. [J.-P. Manchette, *Journal: 1966-1974*, 2008, p.396]

(56) Nous devons recevoir à dîner lundi les Zylberstein, bon prétexte pour acheter du scotch ordinaire et du Glenfiddich, et de la vodka. Depuis que j'ai fini le premier jet de NADA, je me repose autant que possible et *c'est chouette*. [J.-P. Manchette, *Journal: 1966-1974*, 2008, p.554]

(57) Huit cents francs, c'est juste ce que je gagne par mois comme manipulant auxiliaire. Maman m'a fait cadeau de ma paie d'un mois pour le vélo, *c'est chouette*, d'habitude je lui donne tout. [F. Cavanna, *Les Russkoffs*, 1979, p.53]

ここでも違いは即時性にある。*Chouette!*においては、その状況は話者が予想していなかった、新たに生じたものであり、*Chouette!*それを認識すると同時に引き起こされた喜びを表している。一方、*c'est chouette* は、話者がすでに承知済みの、自ら描写した状況に言及している。このことから、やはり、動詞述語の不在が即時性に関与していると考えられる。

5. 結論

本稿では間投詞的な用法をもつ形容詞 *chouette* を取り上げ、その形容詞的用法、*Chouette*, *SN!*構文、間投詞的用法、それぞれの統語的、意味的な側面を考察した。形容詞の *chouette* について、言及する対象に関与する主体が *chouette* の意味価値に大きく関わっており、*Chouette!*に通じる好ましい感情が形容詞の *chouette* にも観察できることを述べた。発話時における話者の感情の表出と、前置付加、後置付加という統語的な環境は関係があるように思われるが、必ずしもそうでない場合もあり、今後さらに追究する必要がある。そしてこのことは、形容詞全体の前置付加、後置付加の議論に位置付けていかなければならない。

間投詞 *Chouette!*については、主題の不在は表面上だけでなくそもそも主題を持ち得ない構造を成していることを主張した。意味的には、*Chouette!*は *Chouette*, *SN!*同様、即時性を認めることができ、この即時性は *c'est chouette* には必ずしも観察されないことから、動詞述語の不在が関与していると考えた。

形容詞、間投詞、いずれの環境に現れる *chouette* にも一貫した意味価値を確認でき、その差異はむしろ即時性にある。そしてこの特徴は統語的な環境と相関がある。以上は、形容詞の *chouette* と間投詞の *chouette* を別物だと捉える立場からは不可能な観察であり、本稿の立場が有効であることを示しているのではないだろうか。

間投詞的に使用される形容詞には *chouette* や導入で

提示した形容詞以外にも Super!, Génial!, Cool!等があり、これらは *Chouette!*と同等の価値を持ち得る。分析対象をこれらの形容詞まで広げて考察を重ねたい。

参考文献

- Ameika, F. (1992), « Interjections: The universal yet neglected part of speech », *Journal of pragmatics* 18 (2-3), 101-118.
- Anscombre, J.-C. (2009), « Notes pour une théorie sémantique des jurons, insultes et autres exclamatives », *Les insultes en française: de la recherche fondamentale à ses implications (linguistique, littérature, histoire, droit)*, D. Lagorgette (dir.), Savoie, Presses de l'Université de Savoie, 9-30.
- Damar, M.-E. (2006), « Rien moins que, rien de moins que : un problème de grammaire revisitée », *Travaux de linguistique* 53, 117-133.
- Dhorne, F. (2003), « Questions d'exclamation », 『フランス語学研究』 37, 1-18.
- Franckel, J.-J. (1989), *Étude de quelques marqueurs aspectuels du français*, Genève-Paris, Droz.
- Goes, J. (1999), *L'adjectif: entre nom et verbe*, Bruxelles/Louvain, Duculot.
- Lefeuvre, F. (1999), *La phrase averbale en français*, Paris, L'Harmattan.
- Le Goffic, P. (1993), *Grammaire de la phrase française*, Paris, Hachette.
- Milner, J.-C. (1978), *De la syntaxe à l'interprétation: Quantités, insultes, exclamations*, Paris, Editions du Seuil.
- Vaguer, C. (2018), « Nom de Zeus! Par Jupiter! Oh, putain! L'interjection de la langue au discours », dans C. Lacheret & A. Roig (éds), *Défense et illustration du prédicat, préface de Sylvie Plane*, Paris, L'Harmattan Dixit Grammatica, 189-221. (Version Pre-publication)
- Winther, A. (2006), « Drôle : un drôle d'adjectif », *Revue Synergies France* 5, 136-141.
- 山本大地 (2011), 「情意形容詞 *fichu* について」『フランス語学研究』 45, 37-51.
- Yamamoto, D. (2020 a), « L'adjectivité des épithètes antéposées *sale* et *foutu* », *Travaux de linguistique* 80, 49-61.
- Yamamoto, D. (2020 b), « Bof en tant que marqueur discursif et son nouvel usage », *Le français innovant*, Berne, Peter Lang, 271-290.

参考辞書

- Grand Larousse de la langue française en sept volumes*, éd. 1989, Paris, Larousse.
- Trésor de la langue Française informatisé*, <http://www.atilf.fr/tlfi>, ATILF - CNRS & Université de Lorraine.
- Grand Robert numérique*, Version 4.1, éd. 2017, Le Robert.
- Dictionnaire de l'Académie française*, <https://www.dictionnaire-academie.fr>, Académie française.

コーパス

- Base textuelle Frantext*, www.frantext.fr, ATILF - CNRS & Université de Lorraine.